



中丹高次脳機能障害者と家族の会

“さくらの会”便り

No123号 2019 11. 18

発行責任者
会 長 田中 明
編集責任者
事務局長 上原 栄
Tel.0773-22-7859

ーリラックスできて、はげまし合うところ、勇気を与えられるところー

リハビリテーション講習会に135名が参加 見えにくい障害と支援について

第23回 脳外傷・高次脳機能障害リハビリテーション講習会が、令和元年11月4日午後福知山市の市民交流プラザふくちやまで135名の参加で開催されました。

第1部は、特定非営利活動法人脳外傷友の会ナナ・クラブハウスすてっぷななの統括所長（作業療法士）野々垣 睦美先生が「見えにくい障害とその支援について」話をいただきました。

森下さんが発表



第2部は、「見えにくい障害をスタートするために」をテーマにして、①「私たちの活動紹介と当事者の体験発表」として、さくらの会事務局のリードで森下絵理奈さんと母親の森下美恵子さん ②「在宅生活を支える」として駅南ニコニコハウスの福村左枝子さん ③「見えにくい障害の支援を途切れずつなぐために」として中丹西地域リハビリテーション支援センターコーディネーター 足立晃平さんがそれぞれ発表されました。

参加者の声

（当事者家族 M・M）

第23回脳外傷・高次脳機能障害リハビリテ



ーション講習会に参加し、自分達なりに理解していた以上に、症状も十人十色なのだ

と再認識できました。

体験者の発表が質問形式だったので、リラックスして発表できました。

終了後、講師の先生に手帳の記入は、どうでもいいことは書かないようアドバイスを受けていましたが、やはり本人には自分が後で知りたいことを書き留めておきたいようでした。記憶が残らない者には、どうでもいい日常の出来事や、食事の内容等が大事なようです。



参加者の声

（当事者家族R・T）

ステップな の野々垣先生のお話は、具体的な例を混じえて、分かりやすかったです。

森下さん親子の体験談は、胸に突き刺さるものがあり、うなずける事が沢山ありました。

参加者の声

感銘を受けた

(当事者家族A・Y)

講習会でお話を聞かせていただければ
いただくほど、高次脳機能障害がいかに奥深
い障害を持った病気かと理解してきました。

作業療法士としての経験をもとに、現場
に即したお話をしていただいた野々垣先生
の講演に、とても感銘を受けました。

参加者の声

思いの違いが

(当事者家族S・Y)

野々垣先生の話の中で、グループホーム
にお世話になればいいと思う家族の思いと、
当事者の思いが違う事がある。家族として
は、グループホームに入れば安心だが、当
事者は今の生活を続けたい。とっていて
トラブルがあると話されました。家族は、
当事者の生活のことを心配して、良かれと
思っていることでも、当事者の思いと
違うのかと・・・考えさせられました。

京都市北部 高次脳機能障害者と 家族の集い

お知らせ

主催・京都市健康福祉部障害者支援課

【日時】：令和元年12月4日(水)
13時30分～16時

【会場】：市民交流プラザふくちやま
4-1会議室

・参加無料 ・11月22日申込み切
(別紙のとおり)

【内容】

- ①講演「高次脳機能障害、
支援の第一歩」
- ②家族からの体験談
- ③地域で使える障害福祉サービスのご紹介
- ④インフォメーション
- ⑤当事者・家族交流会

カラオケ交流会

【日時】 12月8日(日)

午後1時30分～4時半

【場所】まねきねこ
(綾部市大島町)



【日時】

令和2年3月1日(日)

10時30分～15時30分

【場所】

綾部市保健福祉センター
2階

詳細は次号で

新春交流会

【編集後記】

▼今年の秋は、短かつ
た!!慌てて冬物をだし
ました。

▼一年一年が短くなり、
時ばかりが足早に過ぎ
て行きます

▼今からでも、遅くは
ない。前向きに、小さ
なことに挑戦して「出
来た!!」という喜びを
味わって行きたい。

▼それと、「どうしよ
うもないこと」はクヨ
クヨ考えても仕方ない。
笑って誤魔化すくらい
のほうがいいのかも

▼寒くなってくると、
心も寒くなってくるよ
うな気がします。

▼温かくして、風邪を
ひかないよう
気を付けてく
ださいね

【U】

